

学 位 論 文 要 旨

氏 名 山内 愛

題 目 オーストラリア連邦におけるSchool Based Youth Health Nurseとわが国の
養護教諭との比較研究
－これからの養護教諭の学校保健活動推進のための中核的役割のあり方－

第 I 章 序論

わが国の学校保健に携わる職種は、学校看護婦から始まり、看護婦自身の職制運動によって教育職員としての地位を獲得した歴史がある。養護教諭は学校に教職員として常駐し、子どもの健康実態に対して保健教育と保健管理を一体化して取り組み、ほぼすべての学校に配置されている。現在、養護教諭にはヘルスプロモーションの理念に基づき、学校保健活動の推進にあたって中核的な役割が求められている。しかし、時代や子どもの変化に合わせ変化してきた養護教諭の職務は、職務内容の項目内には入りきれない職務があり、明確に固定されたものではない。柔軟であり、一方で、曖昧でもある養護教諭の職務について、具体的に中核的な役割として求められるものとは何か、ということは今後さらに検討していく必要がある。

オーストラリア（以下豪州）においては、学校保健に携わる職種には、看護師免許に基づくスクールナース（以下SN）制度があるが、SNは看護師としての役割が大きく、教育的役割は小さい。1999年にクイーンズランド州（以下QLD州）で健康教育を職務の中心とする、School Based Youth Health Nurse（以下SBYHN）制度が始まった。保健管理を主な職務とするSN制度が主流であった中、健康教育を行うSBYHNの誕生は注目することができる。そこで本研究では、SBYHNの学校保健における役割を明らかにし、わが国の養護教諭との比較研究を行うことで、養護教諭が担うべき学校保健活動推進の中核的役割のあり方について明らかにすることを目的とする。

第 II 章 オーストラリアにおける学校保健とスクールナース制度の実態

公立学校にSN配置のないサウスオーストラリア州（以下SA州）の学校20校を対象に、学校保健の現状について、ならびにSNが配置されていない公立学校と配置されている私立学校の現状について調査分析し、養護専門職が配置される意義について質問紙法と直接面談法により検討した。SA州の学校保健は教師、事務職員、外部保健機関、保護者などが関与し、連携と同時に役割分担がされていた。また、公立学校の保健従事者と私立学校のSNの分析では、意識や職務内容に違いがあり、SNなどの養護専門職が果たす役割は大きいことが明らかとなった。

豪州の養護専門職であるSNの役割を明らかにすることを目的とし、豪州におけるSNとわが国養護教諭の職務内容を比較検討した。ニューサウスウェールズ州（以下NSW州）私立学校のSN44名とわが国A県私立学校の養護教諭22名を対象とし、質問紙による調査を行った。その結果、SNが強く意識していた職務内容は、「救急処置」と「保健室経営」であった。NSW州私立学校の学校保健は、SNだけでなく、スクールカウンセラー、保健機関、保護者などが関わり、役割分担がされていた。一方、養護教諭は「救急処置」と「保健室経営」の他に、「保健教育」、「健康相談」など多くのものを意識していた。SNは看護職としての役割は果たしているが、保健教育、健康相談に関わる実践はわが国の養護教諭に比べ少ない。教育職員として子どもの健康を保持増進するすべての活動を担う養護教諭に比べ、SNは看護師としての役割が大きいと考えられた。

第三章 School Based Youth Health Nurseの新たな取り組み

学校を拠点としたヘルスプロモーション活動であるヘルスプロモーションスクール（以下HPS）の推進においてSBYHNが果たす役割と課題を明らかにすることを目的とした。そこでSBYHNを対象に行った半構造化面接を通して、SBYHNのHPS推進における現状と課題を分析した。その結果、健康についての学校の方針、学校の物理的・社会的環境といった学校全体での取り組みが必要なものの実践は不十分であったが、個別の健康相談、外部機関との連携といった看護師としての専門性が活かせるものは十分に実践されていた。医療機関から派遣されているSBYHNは、学校教職員である教員との意思疎通や連携に困難を感じていること、SBYHNが連携する機関として挙げた外部機関は福祉関係、保健関係を中心に37機関と多数あり、外部機関が充実していることが背景として考えられた。HPS推進においてSBYHNは看護師として、また学校と外部機関をつなげる役目として重要な役割を担っていたが、中心的な役割ではなくチームの一員として役割を果たしていることが明らかとなった。課題として、SBYHNと学校教職員との連携を密にすることが挙げられ、今後、SBYHN、学校教職員ともにHPS理解をより深め、より組織的に取り組むことでHPSをさらに推進できると考える。

第四章 養護教諭が担うべき学校保健活動推進の中核的役割のあり方

学校保健活動は、学校は組織として、また、学校と地域が一体となって推進することが重要である。養護教諭は、学校に養護専門の教育職員として常駐し、子どもを継続的、全体的に見守り、育てるためのわが国独自の制度である。学校保健の中核となり、様々な関係者とともに取り組む養護教諭制度は、学校保健活動推進において優れた制度であるといえる。

養護実践について、養護教諭は保健管理、保健教育の両面において、学校内での連携ができており、学校保健活動推進において大きく寄与していた。一方で連携する外部機関の種類や数、学校で活動する専門スタッフの種類はQLD州と比較すると少なく、地域との連携、学校組織として学校保健を推進することにおいて課題があった。そこで専門スタッフや外部機関との連携、教職員に対する意識啓発などの一層の取り組みを行い、チームとして学校保健を推進することが求められる。さらに定期的に学校保健活動の評価を行うなど、長期的視点から学校保健推進に取り組むことが重要である。また、これら課題に取り組むことで養護教諭は「チーム学校」推進において重要な役割を果たすと考える。